

産業生活常任委員会

(平成25年2月1日)

山本里香委員長

おはようございます。

産業生活常任委員会を開催させていただきます。

きょうは森委員のほうから欠席の連絡がついておりますので、そのことをお知り置きいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

きょうはちょっと盛りだくさんの内容になっておりますが、昼までの時間で十分にご審議をいただきたいというか、調査研究及びご意見をいただきたいと思います。

事項書を見ていただきますと、商工農水部のほうから私どもが所管事務調査をいたします観光施策について。協議会として、中心市街地活性化基本計画の今の状況を報告していただく。そして、消防本部のほうから申し出がありまして、協議会として説明をいただきます指令センターの整備にかかわる費用負担についてのことがございますので、皆さんの中でも十分にそれをお知り置きいただきまして、ご意見をいただきたいと思います。

きょうの一番初めの観光施策についてですけれども、観光施策についてということで、市民の方より8月定例会議会、ご意見がありました、観光振興条例の制定ということにつきまして、議会運営委員会での協議を経まして当委員会で扱うことになっているという背景がありますが、私たちはその観光振興条例のみに特化したわけではなくて、観光施策についてということで今の状況を確認し、今後、何が必要かというようなご意見をここでいただいてまとめていきたいと思います。

ただ、議論した結果につきましては、議会報告会におきまして市民に報告するということになっておりますので、よろしくそのことをお知り置きいただきましてお願いをいたします。

つきましては、資料を用意していただきましたので、説明を商工農水部よりしていただきます。よろしく願いします。部長さんより一言、まず初めにお願いいたします。

清水商工農水部長

皆さん、おはようございます。

所管事務調査として観光施策について、常任委員会で中心市街地の活性化の進捗状況について意見交換をさせていただきました。観光施策につきましては、観光推進室を設置し

て丸2年がたとうとしてございます。きょうの資料の中では、この2年間で取り組んできた施策について資料でまとめております。それをご説明させていただいて、来年度に向け、観光施策についていろいろご議論いただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

山本里香委員長

それでは、説明をお願いします。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

おはようございます。

それでは、観光施策についての現状のご報告をさせていただきます。

資料をごらんください。

3枚ものになっております。1ページが観光戦略プロジェクトの実施状況、それから、1枚めくっていただきますと、四日市観光戦略、43と呼んでおりますが、これの概要版でございます。3枚目が観光戦略プロジェクト以外の観光施策ということでご説明をさせていただきますたいです。

まずは2ページをごらんください。

これは観光戦略概要版でございます。三つある四角の一番左上、観光戦略の基本姿勢ということで、やってみる、経験する、進化するという実効性を重視ということがまず柱でございます。これが基本姿勢でやっております。

右側の四角に観光プロジェクトの具体的な提案として、 から まで挙げてございます。これに従いまして、1ページをごらんください。

1ページのプロジェクト名、一番左の段です。1から8までのためにまとめてまいりました。

それでは、順次ご説明をさせていただきます。

土鍋d e ごはん、主に内容についてご説明をします。5月の萬古まつりの会場で地元農産物を使いましたかぶせ茶鍋の試食を実施しております。それから、同じく萬古まつりでご当地アイドル4 S a i l s というのが土鍋応援ソングの土鍋d e ごはんを初披露いたしております。これらについては市民の有志が食用の料理の調理であるとか、先ほど申し上げました歌についてご協力をいただいております。秋の萬古まつりでも、土鍋d e 料理グランプリを開催しております。これも萬古の連合会が企画を

実施し、私どもも実行委員会に参画をしておるところでございます。

ちょっと、この4 S a i l s って何やというところなんですが、ちょっと細かいので後ほど見ていただければと思います。四日市の子3人、4 S a i l s の4は四日市の4です。萬古まつり、大四日市まつり、花火大会、秋の萬古まつり、それからファミリー音楽コンクールというようなところに応援をしていただいて、歌、それから、P Rをしていただいたというところでございます。

失礼しました。次にまいります。

かっこいい四日市生活というところで、四日市の地場産品と生活を結びつけてP Rするポスターを作成しております。これは、市民有志団体であります四日市観光戦略43実行委員会、通称43会と申しておりますが、構成メンバー、飲食店の若手店主、地域情報誌、それから観光、萬古、それぞれの若手の方々に実行委員会を組んでいただきました。その方々に考案していただきまして、四日市の食材、それから特産物、冬、夏ということで、年間を通じてまた張りかえると、夏は夏にひっくり返すというようなことで、これを、かっこいい四日市生活のまずは市民の方々に、四日市を代表していただいた方々に目にとまるように、このポスターを製作いたしました。これも繰り返しますが、市民有志団体により考案をされております。

それから、資料の3番、四日市ナイトサファリということで、四日市の新定番、四日市に来ていただいた方に四日市ならではのものを提供しようということで、茶農家、それから地元酒造会社と連携して、かぶせ茶を焼酎で割ったかぶせ茶ハイというのを考案いたしました。9月にはイベントを行い、現在もこのポスター、あるいはのぼりで市内の飲食店に掲げております。四日市観光戦略43というロゴもこの市民有志団体といいますが、この43会によって考案をされております。

それから、4番に移ります。

もてなし処「四十三茶屋」ということで、昨年10月に四十三茶屋として近鉄構内の1階、観光案内所をリニューアルいたしました。そこでは、かぶせ茶の無料試飲、それから地元農産品の展示を行っております。その下の欄ですが、町なかでの四日市の地場産品のP Rをする店舗、これも四十三茶屋の支店としておもてなしネットワークを構築、これも進行中でありまして、43会がそのコンセプトづくり、策定中でございます。それから、各イベントにつきましても、そこに参加するときに出張四十三茶屋ということで、同一のイメージでP Rできるようなことも、P R用品を製作し、今、進行中でございます。

四十三茶屋の四つ目の四角でございます。市民力の活用という面でございます。四十三茶屋の観光ボランティアの活動の場として活用していく準備としまして、観光ボランティア団体相互の交流、勉強会を開催、これも準備中でございます。

この右の欄に行ってくださいますと、北勢地域インタープリター協会というのがございます。昨年発足しまして、観光案内や自然観察案内を目的に発足をされております。この方々が勉強会のまとめ役として、今、準備を行って、観光協会も支援を協力しておるといところでございます。

5番、6番、7番につきましては、具体的な実施に向けて検討、準備中でございます。

8番、ナンバー43プロジェクトというのは、先ほど申し上げましたこのロゴづくりで、何しろ視覚に訴えるということで、きょうもそうなんですが、市民の方々に観光をPR、力を入れておるといことを発信しようという取り組みでございます。これが観光戦略プロジェクトの実施状況でございます。

3ページ目、お願いいたします。

時間が限られていまして、はしょっていきます。観光プロジェクト以外の観光施策ということでございます。市議会の皆様にお世話になりました観光大使を5名選任いたしまして、この実施者という欄ですが、その観光大使の一番下に広報よっかいち3月号で特集を組みます。既にインタビューは終わっておりまして、これらの方々の就任について、市民の方々にPRをしようということでございます。観光大使の方々は出身者の著名人ということでございますので、外から見た四日市の魅力もまた四日市市民に、そして全国に発信していただくといところでございます。

その下、るるぶ『まさかの四日市！？』の制作。これはもうご案内のとおりでございます。

四日市コンビナート夜景クルーズにつきましては、22年度から始まって、22年度が1000人、ことしは3000人の参加者を数えました。これが四日市の観光の今の柱でございます。

その下、産業観光への取り組みということで、24年度からはコンビナート企業の協力を得ました。それで、平日昼間の産業観光バスツアーを開催しております。協力企業はここに書いてあるとおりでございます。その横の欄ですが、これにつきましても、案内ボランティアの協力者として、四日市案内人協会、それから東ソーのOBの方々に多大なるご協力をいただいております。

同じく産業観光の取り組みの下、工場夜景都市との連携ということで、サミットの開催、

それからフォトコンテスト、それに切手シートをことしは日本郵便東海支社から提案を受けまして、ここに張っておりますが、各工場の勤務してみえる方が自分の工場のうちから、敷地内から撮ったという貴重な画像を提供いただきまして切手にしておるところでございます。

あとは、こにゅうどうくんを活用したファンづくりということで、フェイスブック、ツイッター。

それから、コンベンション誘致につきましては、一定規模以上のコンベンションの開催に対して支援をしております。100泊以上、それから東海大会以上の規模ということでございます。本市でのコンベンションの開催を計画している主催者への開催支援、周辺施設の案内等々を行っております。

そして、また、大きなものとしましては、イベントの開催として、まつり、花火、サイクルというところになっております。

その他としましては、東京、名古屋、大阪のメディアへの交流会、発信会というところ。それから、エキサイト四日市バザール等々のイベントにもこにゅうどうくんとともに参加するなど、観光物産のPRをしております。

その下、観光施策の管理といたしましては、サイクルパーク、スポーツランド、それから宮妻周辺の管理、運営を支援しております。

それと、商工会議所との連携という面で、あと二つ欄がございます。

商工会議所の 全国展開プロジェクトということで、観光面での推進プロジェクトを会議所が担っております。会議所事業として行っております。そこにそのプロジェクトの会員として参画をしております。具体的にはポケット版観光ブック、これはお手元に先ほど配らせていただきましたものでございます。それとリンクした、後ろにございますが、四日市ブレイクということでポスターづくりをして、私どもの観光戦略とリンクしながら進めております。

特出すべきは、タクシーを使った市内観光めぐりということで、今、モニターツアー実施中でありまして、これについても、市外の方を対象に、今、準備を進めておるところでございます。

最後に、よっかいちフィルムコミッション、これは四日市商工会議所の青年部が昨年11月に設立をされております。映画、ドラマの誘致でございます。ホームページにより、ロケ地を、今、紹介しておるところで、ちなみに、平成24年公開の「グッドラック

恋結びの里」、これは水沢のもみじ谷で一部ロケがされております。それと、ことしの4月、ゴールデンウィーク公開の「藁の楯」というのは、これは市内でロケが行われました。コンビナート周辺、それから富双等々で、四日市港等々でロケがされておまして、有名な俳優も女優も来ております。こういったところに、観光推進室としましては、撮影時に必要な許可の調整等々を行っております。

観光元年の宣言以降、観光戦略、それから施策に、それから観光大使というところで、今、申し上げました、市民の力をかりて進めております。今後は、まだ一部の市民の方々の有志の方々とともにということですが、さらに広げて、市民の方々の力をかりていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

山本里香委員長

それでは、ご資料の説明をいただきましたが、委員の皆さんにお願いをいたします。

これから、資料についての質問であるとか、それから、全体の観光、どういう形についての足りないところ、これからの進め方とかにご意見をいただきますが、個別の内容に深く、皆さんそれぞれのご意見を十分お持ちだと思っておりますが、入っていきますと、とてもとてもまとめるのが大変になってまいります。個別のことについては例として出させていただくのは構いませんけれども、予算審議の中とかで、また皆さんがご意見をいただくというか、ご指摘をいただくというふうなことにしていただきたいということで、今回、こちらのこの観光戦略全体として、四日市の観光元年から観光推進室を設けて、そして、市民の方からの意見はみんなが観光にもっと頑張れよと、市民の皆さんを巻き込んだ形にしるよという指摘から条例等のことまでお話が触れられていたわけですけど、そういった意味合いで、総合的な形としてのご意見交換ということをお願いをしたいと思いますのですが、よろしいですか。

(異議なし)

山本里香委員長

それでは、まず、質問ということの中で、資料に対することでもし何かありましたら。余り深く個別で、ご意見を入れていただくと困りますが。

荒木美幸委員

簡単な質問をさせていただきます。皆さんが本当にいろんな工夫をしてくださっていることについては本当に感謝をしたいなというふうに思うのですが、切手シートなんですけれども、これ、売れていますか、まず。

山本里香委員長

どなたが。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

PRを新聞で発表はいたしましたところでございます。2000シートつくりまして、今、細かくは窓口で聞いてはおりません。未確認でございます。ただ、きのうも近鉄のスターアイランド下の郵便局の窓口はまだこれが張ってありましたので、まだ発売中ということで、完売はしていないという確認。

荒木美幸委員

私も早速購入をいたしました、2シート。実は、郵便局の方がその当時知らなかったというのもありましたし、最初のころだったと思うんです。それ何ですかと言われたんですけども、それでも2シート探していただいて買いましたが、正直申し上げて高いという印象がありました。80円切手が10枚で1200円なんですね。ということは、1枚の封書を80円で送れるところを120円かかるというのは、一般庶民の感覚ではちょっと高いなというのを正直感じたんです。これはもう少しコスト的にお値打ちにというのは、やはりいろんな状況で難しいんです。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

日本郵便の企画物でございます。これ、切手シートは1200円と決まっておるようでございます。ただ、工夫としましては、シールとしても張れるように、剥げるようになっておったり、なかなか日本郵便の代弁は難しいんですが、額物、規定物ということでございます。

荒木美幸委員

ありがとうございます。

いたし方ない部分があるのかなと思いながら私も拝見していたんですが、郵便局さんのほかの切手シートは、やはり払った金額分の切手がついているということを見ると、やはり一般のお客様がいいなと思っても、なかなか手が出ないというのは正直あるんじゃないかなという印象を強く私自身が持ちましたので、ちょっとまた参考にとということで、ご意見させていただきました。お願いします。

山本里香委員長

ほかに。

伊藤 元委員

済みません、ありがとうございます。

いろいろと取り組みをご紹介いただいたわけなんですけれども、この観光施策ということで、観光推進室さん、本当にいろいろと汗かいていただいておりますのかなと思っておるんやけれども、きょうの報告で見ておると、余りちょっと皆さんが汗かいている内容がどうなんかなというところが私は正直ちょっと感じるんですよ。

何が言いたいかというと、やっておる人たちが、いろんなまちでいろんな人たちがやっておるんやけれども、それに対してのいろんなアドバイスをしたりとか、何か働きかけをしたりとか、もう、これ、連絡調整というのはそうやわね、ほとんど。それは当然のことなんやけれども、やっぱりもう一步踏み込んだ取り組みが僕は必要じゃないのかなと思うんですよ。例えば、何か一つの事業について、それがどうなんやという分析というのはきちっとされておるのかな。

それで、要するに、その事業っておもしろいかどうか。きのうもちょっといい話あったんですけど、やっぱり観光って遊びの部分、結構あるんですよ。イコール、勉強の部分というのもあります。行って、いろんなことがわかるというね。いろんなセット論で考えていかなあかんときに、まずは取り組み、人を寄せつける魅力がそこにあるかどうか。部長なんかは結構いろんなところに首を突っ込みたいタイプで、いろいろ遊びも好きな人やでその辺わかってみえると思うのやけど、実際そこへ行ったときに、その事業に参加したときにおもしろいかどうか。それぞれみんな決定、報告はある程度されておるんやけ

ど、その辺どう思われます。これはやっぱ目玉になるぞというふうに思われていますか。

山本里香委員長

分析というか、今やっていることに対して。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

少しご説明が足らなかった部分がございます。例えば、土鍋d e ごはんで、この1ページの観光推進室の働きというか、役割というところで、農家、飲食店、土鍋窯元との連絡調整。実は、土鍋d e ごはんを観光戦略の初手の着手のプロジェクトとして行いました。そのときに観光推進室から土鍋の窯元に参り、それから、農家の活躍してみるA g r i ろまん四日市サルビアという団体がございます。そこの方にまた提案をし、それから、土鍋d e ごはんですので、出口にならないけませんで、地元飲食店で活躍してみえる団体に声をかけ、農、商、工という、こういう業種をひっつけて、今までとは違う人、熱い方々をひっつけて、そうすると、よしやろうにということで、自分たちも四日市のまちをP Rする、自分の業種でP Rできたらこんなにうれしいことはないというようなことを申されて、この土鍋d e ごはんを着手し、市民有志団体43会に発展をしたという経緯がございます。その関係を大事にしたいなというところが一つ。

それと、観光元年というところで、コンビナート夜景クルーズを基盤として、リタイアされた先輩方が本当にまちの紹介、観光ボランティアとして今でも活躍をしてみえました。俺たちの力をもっと使ってくれよというご意見も頂戴をしておりますし、分析になるかどうかわかりませんが、そういった形で市民総動員という形でこの四日市の施策、あるいは観光戦略をもとにやれる雰囲気づくり、それをまたまとめていくという私どものやりがいということにはつながっておりますので、まだ緒についたばかりでございますが、この方向でやらせていただくと非常に地域活性化というか、地域住民の活性化という形のつながりができるのではないかと。

繰り返しますが、それぞれの業種だけで頑張っておるだけと違って、横につながって、それで観光キーワードにやっていくというところに芽が出てきておるというふうに思っております。

伊藤 元委員

ありがとうございます。

ちょっと気にせんと聞いておってな。意見やでな。僕、感じているのは、今、説明されたことはすごいいいことで順当な話やと思うの。それでまた、当然やっていかなあかんことの一つかなと感じるんやけれども、かた過ぎる。何か怖い。怖いというのは恐怖じゃないよ。何かぐっと押し迫るものがあり過ぎるような気がするの。何かと何かを連携させて発展をさせたいとか、裏工作が見えてくるというか、そういう部分をちょっと感じるの。観光ってそんなものじゃなくて、やっぱり素直に何か昔からあるものを改めて、ああ、そうなんやという発見で見に行ったりとか、何かもっと気軽なものなような気がするんですよ。

今、皆さんが考えておることは、四日市のまちを活性化していかんならんで、観光と結びつけて頑張っておるといのはすごいひしひしとわかるの。でも、それやと逆に何かある程度の範囲しか寄りつかんような気がするんですよ。そうじゃなくて、そんなばかばかしいことがというのが意外と受けたりして、それで人が来て、ばーっとお金を落としていったというのも一つの観光やと思うの。それを考えよといのはちょっと難しいんやけれども、ちょっとしたことでそれが火がつく。

以前、観光施策ということで、私、小樽のまちへ、市役所へ行って、運河のまちね。あそこへ勉強に行ったんやけれども、ほいだら、私ら自分らここに住んでおって商業のまちやった。要するに、船が来て、倉庫があつてるところが、それがいろいろとシステムが変わって行って廃れて行ってしまった。人が減っていく、何とかしたいね。すぐ近くに札幌というまちがあつていっぱい人が来る、何か呼びたいと。そういうときに、運河で飯が食えるようになったといのは自分らもびっくりという話をされていました。そこへたまたま北一硝子というガラス工芸のお店が張りついてもらったら、人がそこへ来るようになってくれた。それで、ここまで伸びるとは思わんかったと言っていましたわ。

そこで、今、何が問題やといのは、札幌から遊びに来て泊まってくれやんというか、もう行って帰っていくと、足どめをしたいという思いを何とか頑張ってお考えしていますという話を聞いてきたんやけれども、そやで、例えばもっと見直してみると、ポテンシャルはあるで、その結びつけが余りにも意図的やと逆に観光客は引いてしまうという部分があるへんかなという気がしてならんのですわ。ほやで、もっとちょっとやわらかい感じで、いろいろまた違った視点でも見ながら取り組んでいただけるといいのではないかなという気がしました。

これは意見ですけれども、何かあっと思ったところにヒントがあったりして盛り上がるということが結構あるみたいなので、今やと、もう、一生懸命四日市のまちを何とかせな、何とかせなと思って、一生懸命やるもんで、いっぱいわらをつかむんだけれども、それなりの効果しかないなということでもないのかな。結構効果が出ておるやつ、ようけあるで全てとは言いませんけど、そんな感じが、ちょっと私、今、最近しています。もしよければ参考にしておいてください。とりあえず意見ということで。

清水商工農水部長

確かに言われるとおりで、私のモットーは仕事は楽しくやらなあかんというのがモットーで、特に観光なんていうのは本当に楽しく、乗りでぱっといくもんやというのは私は思っておるんですけれども、2年たって、確かに肩に力が入っておるといのはあるかもわかりません。立ち上がって何とかせんならんというところが本当に出ているのかもわかりませんが、行政がやると本当に余りおもしろくないもんで、なるべく民間の方、民間の方という形でこういうふうに、今、進めておるんですけれども、その辺、肩の力も抜きながら、本当に乗りよく市民の方の協力を得られるような、息切れしないような取り組みをしてまいりたいというふうに考えてございます。

小林博次委員

ご苦労さん。岡田さん中心に汗かいていることはようわかります。

でも、これ、伊藤委員も指摘しておったけど、例えば、今、きのうもテレビを見ておったら、韓国でも米離れ、日本は特に米離れ。だから、土鍋d e ごはんと言うけど、ご飯そのものが嗜好が変わり始めた。それから、もともと、土鍋って伊賀でつくられて、四日市が下請して、やがて四日市に移り、今、四日市は常滑に下請に出し、中国からは前に大きいスーパーが30万個、数年前に輸入して、全部水漏れで返品をやった、そんな記憶があるんやけど、やがてどこかへ行ってしまう。だから、土鍋を売るということも大事なんやけど、焼き物のまちとして、その地域が観光に使えているのかどうかね。だから、鍋1個取り出してみるというのも、それは売る側からは売りたいということで観光に何とか結びつかんかという、そういう発想はようわかるんやけど、買う側から、あるいは観光に来る側からすると余り興味が湧かない。本当に興味が湧いたらどっと来ておると思うんやわな。だから、あんまり興味湧かない。

恐らく国内なら関東で、例えば僕も一遍群馬観光から頼まれたことあるんやけど、釜飯の釜、土でつくったやつな。あれ、四日市の土がかなり入っていると思うんやけど、今もいっているかどうかわからんけど、それとか、急須とかは関東では随分人気があって、その関東周辺に何かええ拠点をつくって観光をという発想なら、これでも切り口になるとは思うんやね。

だから、やろうとしておることが、単に売る側から一生懸命売ればな、観光に結びつけばなという発想だけでは、なかなか観光に結びついていかない。だから、どこかで人気があるとすると、そことどう結ぶのかというのが基本的に出てこないで観光に結びつきにくいんと違うのかな。

だから、全体を見ておると、売る側からいろいろ種と仕掛けがあるみたいやけど、さてなど。例えばコンビナートの観光、夜景クルーズなんかも、割と国内も人気があるにはあるけど、そうリベートするわけではないので、そうすると、中国なんかでも、毎日テレビでやってるけど、大気汚染が深刻で、克服したまちの宣伝が中国国内もしくは発展途上国であわせてやると観光と結びつく。そのかわり、中国人が来てくれるのはええけど、北京語しゃべれやんやろうと。土産物は何か用意したかと。食べ物は中国、大体寿司やにと。台湾が来るとラーメンが主流やわね。だから、そういうルートの中にそういうものがセットで用意されているかということ、単品ではあるけど、話が今、横つながっておると言ったけど、つながっていないんやな。観光という切り口でいくと。

だから、基礎的な作業はこれで十分できたと思うので、あと、もっと新しいものと、それをルートとしてきちっと完成させていく。これは小さい旅行者を呼びかけて四日市来てもらって、どんなニーズがあるのという相談なんかをしてみると、意外と客をふやせる可能性につながっていく、そんなことがあるんと違うかなという気がしたので、ちょっと一言だけ、何かあったら、嫌みでも結構だから。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ありがとうございます。

お客様視線というのは、非常にこの仕事、一般の公務員、ほかの部署では感じられないことが観光に携わらせていただきまして非常に感じておるところでございます。これも民間の方々とお話をしておっても感じますし、議員の皆さん方が言われることも非常に、全く一緒でございますので、それはありがたくこれから目指すところもそういう方向にいき

たいと思います。

萬古焼一つにとっても見せ方、あるいはそのPRの仕方、委員がおっしゃられたような他とのまちもというようなことで、農、商、工って本当に役所の言いたいところでは言いましたが、本当に市民の力と、それからお客様目線ということで、これから楽しくやっていないかなと、それが一番伝わることなかなと再認識させていただきました。ありがとうございます。

山本里香委員長

ほかに。

加納康樹委員

改めてまとめたのを見させていただいて、行政としては、行政が前面に立って前でぐいぐい引っ張るんじゃなくて後押しをするんだよというふうなところの総括とかはよくわかったと思っています。

私も、この2年の総括みたいなものなかな、いろいろされたというのはわかっているし、やれることは何でもやるという精神は私は大いに賛同するところなんです、あえてちょっとここでご質問したいのは、じゃ、いろいろやりました。いろいろ書いてもらいました。この2年間で最大の成果を上げたメーンは何だと思われていますか。そして、今後に向けてのネクストは何か考えていらっしゃいますか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ありがとうございます。

最大の成果というのは、ちょっと繰り返しになるかも知れませんが、市民の有志の方々が四日市の魅力をみずから発信しようというようなことで組織化されたり、私どもと一体になって観光で魅力を発信しようというところが一番の成果だと思っております。一部の熱い方々だけではこれはいけませんので、もう少しその輪を広げるというところが一番の課題であり、まだできていないところ、途上のところかなというふうに考えております。

清水商工農水部長

ネクストという話が出ましたけど、私、今、かねがね言っておるんですけど、四日市はコバンザメ観光やと私は思っていますので、その辺がことしの遷宮もありますし、ほかの鈴鹿サーキット、湯の山、長島温泉、伊勢志摩、そこへ来られた方が四日市へ寄っていただけると。四日市だけで、私、四日市行こうというのはまずないと思うんですよ。だから、その辺の客を呼び込むネットワークといいますか、連携といいますか、その辺が次のネクストの課題になるんじゃないかなというふうに私は思っております。

加納康樹委員

最初、室長のほうから言ってもらった、一生懸命頑張っただけでネットワークでやっていただいている云々というところで、あえてちょっとだけ意地悪なところを聞かせてもらおうんですが、この観光戦略の会議のフレームに載らなかったせいなのかどうなのかなんですけれども、私、この2年間やってきた四日市市内のイベントで一番秀逸だったのはジャズフェスだと思っているんですけど、全然出てこないんですよ。このフレームに載っていないからなのかもしれませんが、対外的にもそれは2番煎じだったかも、3番煎じかもしれませんが、1番できのよかったイベントはあれだと思うんですが、行政はフレームに載っていないからジェラシーで載せないんですか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

全くジェラシーではございません。非常に民間主導で盛り上がったイベントだとは認識しておりますし、それが市民の四日市を盛り上げるというところで一番すばらしい形だとは思っております。載せなかったのは、済みません、行政の枠の中で主催をしたとか何とかというところでないので載せなかっただけで、単にジェラシーでも何でもございません、済みません。

加納康樹委員

一番、ジェラシー、そうですね。あのタイミングと前後してファミコンがあったので、田中市長もほとんどジャズフェスのこと何にもどこでもしゃべらないので、ぱくってしゃべってもいいのになと私はずっと思い続けていたんですが、そんなところも、別に民間でやってもらっているものを行政がわざわざ手を突っ込む必要ないと思うんですが、あのイベントも育てられるような環境整備だけはぜひお願いしておきたいなというふうに思っ

います。絶対、対外的にもあのイベントが一番よかったけどな。

以上です。

山本里香委員長

ありがとうございます。

ほかに。

荒木美幸委員

私、お聞きしようかなと思ったら、先ほど部長が式年遷宮の話をされましたので、そのことについて少し触れさせていただきたいんですが、実は私の友人がその式年遷宮目がけて仙台と東京からこちらに来る予定にしています。せんだって、せっかく三重に行くのだから、ほかにいい場所はないかと聞かれたときに、近鉄電車で四日市でおりてと言えないところがすごく苦しかったんですね。

実は、志摩のほうも今、式年遷宮のお客様をどう取り込むかということで、確か志摩スペイン村が、志摩スペイン村に回ってもらえるようなルートを今考えたりとかしているようなんですね。鳥羽とか志摩というのは近いので比較的取り込みやすいんですけども、距離が離れている四日市に全国からの20年に1回のお客様をどう取り込むかと考えたときに、非常に厳しいとも思うのですが、逆の発想で、例えば出前で向こうに乗り込んで行って、例えばですが、それこそおかげ横丁のどこかの人の一角にブースを設けさせていただいて何かができたりとか、そんなこちらから乗り込んでいくぐらいの勢いで、全国から20年に1度の式年遷宮にいらっしゃるお客様を四日市のPRの場所としてどう取り込んでいくかという発想も持っていただけるといいんじゃないかなと思いを持っていましたので、ちょっとこれ、意見になるんですけども、お話をさせていただきました。もし何かコメントがあればよろしく願いいたします。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ありがとうございます。

式年遷宮はビックチャンスでございますので、それを意識して、三重県でも県内のキャンペーンを張ろうということで、北勢、それから中勢、それぞれの区域でPRの冊子をつくったり、周遊のスタンプラリーをしたりということを考えておりまして、四日市もその

一端を担っております。

ちょっと離れますが、現状を申し上げますと、やっぱり式年遷宮以外のところでも、市内のビジネスホテルの方々にお聞きすると、支配人に、やっぱり二手ありまして、伊勢に行く人が通常から多い、それから、高級なホテルで周辺で泊まれる方。それから、その帰りに、あるいは行きに四日市のビジネスホテルに寄っていかれるという、それで足を延ばされるという方もみえるそうです。

私どもとしては、そういったニーズをどう取り込むか。それで、そこに来ていただいた方が、ビジネス客も含めて、2時間、時間あいておるのやけど、あるいは半日時間あいておるのやけどなというところを、どう市内の、自転車も含めて、歩きも含めて、おもてなしも含めて、つないでいくことができるのかなと、そういったところを観光としては考えていかなあかんかなとは、今、思っております。

あと、委員にあれなんですけど、僕も本当によそから友達が来ると、どっこも案内することがないなという、観光推進室まではそう思っておりましたが、今はもうそれをつくる、あるいはそういったことで、市民みずからが泗翠庵あるよと、水沢行ったら、ええ風景あるよと、ポートビルも上ってみたらどうというようなことを、もっとみずから発信できるような仲間をふやしていきたいというふうには思っております。

清水商工農水部長

ぜひお友達には、今、言いましたように、四日市で泊まっていただいて、伊勢まで行っていただく。夜は四日市で楽しんでいただくというふうなPRをご紹介していただければ非常にありがたいと思います。

荒木美幸委員

ありがとうございます。

山本里香委員長

よろしいですか。

樋口龍馬委員

よろしく申し上げます。

まず、とん協について全く触れられていないですよ。それから、コンビナート夜景クルーズでボランティアさんと調整するとありますけれども、あそこの乗り場の整備について、これからどうやって考えていくのかということも全然示されていないですし、コンベンション誘致に関しても、10年後のスポーツ課とのものに向けてどういうふうに施設、宿泊施設が足りないのをカバーしていくのかということも全く示されていないですし、フィルムコミッション、ここでグッドラックを挙げられていますけど、グッドラックを撮影しているときはフィルムコミッションでき上がっていないですし、今現在、全く使われていない、そことどういうふうに協力して誘致をしていくのかということも書かれていないですし、東海道の整備についても、式年遷宮に向けてどういうふうにしていくのかというビジョンも全くない状態で、自転車のマップもつくってどんどんやっていくと言ったのに、この観光の施策の中に入っていない。大変、本来進めてみえるはずのことが全然書かれていないのはなぜでしょうか。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

この報告、観光施策については、漏れているものもご指摘のとおりあるかもしれませんが。そして、これから取り組んでいくというところで、今の報告になじまないものもあつたかもわかりません。実際、B 1 グランプリ等々も、去年はちょっと事業が重なりまして、PR、イベントへの参加の欄にはよう書きませんでした。

それから、個々に説明をするべきかどうかわかりませんが、東海道、それから、フィルムコミッションにつきましても、新年度からまた予算の段階でご説明をするべきかなというふうに考えてございます。

コンビナート夜景クルーズの乗り場等についても、これは四日市港管理組合の整備がまた進むやもしれんというようなことはお聞きしておりますが、私どもの総括しますと、観光施策というところで挙げませんでした。もちろんこれらとは連携して、あるいは参加もしながら進めてまいりたいと考えております。

樋口龍馬委員

目的と目標をしっかりと定めて計画をつくっていかないと前に進まないと思いますし、目的と目標を持っているのであれば、それをこういったものの中に書き込んでいかないと、あれどうなっていますかという質問も指摘も議会のほうからもできないと思いますので、

何をやろうとしていてということが非常にぼやっとして見えにくい。

フィルムコミッションどうやって使うんだ。今、フィルムコミッションのやつらに話を聞くと、何をしたいかわからないと言っていますよ。ちゃんと話してはるんですかとか、東海道の整備って、式年遷宮って10月と違いましたっけ。それに向けて、今、計画もないのに、当初予算で話って、産業生活常任委員会のこの協議会の場に何で何も出ていなんですかとか、自転車のことを言っていたのも去年の夏の話のときにそれを言っていて、それを含めて自転車道の整備のこともご協力いただきたいと行政サイドは言っていたのに、今なぜ示されていないんですかとか、本当に残念です。

山本里香委員長

意見でいいんですか。

小林博次委員

ちょっと式年遷宮と絡んで、本当は表から客をここへ呼ぼうとすると、式年遷宮をやる会場からここまでバスで1時間ぐらいのところなんやね。1時間ちょっとかかるぐらいね。名古屋の混雑圏の手前にちょうど焼津の魚センターみたいな位置にあるわけね、ここが。だから、何とか道の駅か何かつくって滞留できる、そこへ寄れる、そういう施設が欲しいではないかという話が前から出しているんですけども、あれから反応が。今から作り始めたって遷宮には間に合わん。だけど、平成33年の国体には間に合うわけで、だから、10年に1遍ぐらいは節目があるわけやから、その一つ一つを捉えて、とりあえず遷宮のときは何をするか、こういう方向を行政としても出したほうがいいと思うんやわね。

それから、気になっていることがあるんやけど、例えば、2枚目の 四日の朝市、これは商店街が始めた朝市なんやね。我々が問題提起した朝市は、25日に給料もらって、4日になると銭ないやろうと。それまでに金持ってきてもらわんと、なかなかうまくいかんぞということがあって、それと四日市以外の人たちも寄せるために、例えばダイヤモンドなんかも露店で売ってもらえるような、そんな条件整備をした朝市にできないのかと。古着ばかりになっておるやね、今。それはつくった話とは全然違うわけで、観光に使うって、古着で四日市以外から買いに来るってちょっと少ないと思うんやけど、だからもう少し目的意識を持って、それと、自分たちが勝手にやると違って、市をやっている人たちが寄ってやっぱり相談してどうしようということやっていかんと、問題提起しておるのは

全部そういくんや、ばらばらでやってもらっても相乗効果が薄いと思うよ。

例えば、4のつく日はこの隣で市やっておるんやわね。商店の市とは連携されていないわけや。こういうものはやっぱり連携していかんとだめやと思うので、そういう横のつながりをもう少しきちっと。それから、歴史的伝統を持ってきておるやつは、勝手に変えてしまうとばらばらになってしまうので、やっぱり伝統を重んじながら、それを助けながら発展させていく、そんな格好が要りませんか、こんなことをこの中では感じる。

それと、まとめ方、これだけではちょっとやっぱりだめやと思うんやね。これをやるについてのローラー上げておったら整備せいよと、こういうことがあるので、もう一個、どんな種と仕掛けをやっていくかということも書いていく必要があるんやないのかな。何か、全般的にやっぱり物足らん、これ、一生懸命やっておってもらったことはわかったけど。何か足らんのやな、これ。

山本里香委員長

個別、具体的な手だてを行政として何と考えているかということまで踏み込まないという。

小林博次委員

行政でなくても、参加する人たちがこんなことというのがあるかもわからんし、何か継ぎ足しておかんと、これ見て物足りんさを感じるんやわな。ただ、岡田さんの顔を見て、一生懸命汗かいているから、従来よりもはるかに前向いて走っておるので、それは敬意を表するんやけど、ちょっと作文が下手なんかなと。

山本里香委員長

状況収集の部分ですけれども。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

まだこの観光戦略、観光施策、いろいろ途についたばかりと先ほど申し上げました。まずはやってみるというところで、そこで足りないものが出てくる。そこを連絡調整と観光推進室の働き書いておりますが、絶えず本当に連携を密にして、足りないもの、行政の担うべきもの、PR、あるいは支援というようなところも含めて、そういうところが具体的

に進めていく中で見えてくると、そう信じて、今やっておる次第でございます。

ご意見賜ったことについては、非常に納得をさせていただきましたものですから、今後
も頑張りますし、個別、具体のことについても絶えず意識をして進めてまいりたいと思
います。

伊藤 元委員

関連してなんですけれども、やっぱりそれは樋口委員が言われたように、いろんな施策
は打ってきておるんやけど、それをきちっと目的意識を持ってやっておったんかとい
うところがちょっと私らにはわかりにくいなと思います。それはやっぱ、小林委員が今も言
われたんやけど、きちっと検証していくということが大事やないのかな。その結果が目に見
えるようになってくれば成功なんだけれども、やっぱりちょっとその辺がきちっとでき
ていない部分があるんかなというような思いがしましたので、きちっとその辺を検証して
いただいて、私たちにも着手したことがどうやったんかというのがわかるようにしてほしい
なというふうな要望で。

じゃ、ちょっと続けていいですか。

この四日市ブレイクについてちょっと教えてほしいんですけれども、これは、裏に書い
てある商工会議所やら皆さんやとか、観光協会さんの3者が合わせて発行しているやつで
すね。どこから出ておるのかな、特に市は。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

これは、商工会議所が出しております。中身につきましては連携するという意味で書い
てございますが、商工会議所が出しております。

伊藤 元委員

商工会議所さんが出しておるやつに文句言うのはちょっと何やけれども、やっぱり一応
加味しておるわけやから、いろいろと意見を出してもらって、よりいいものをつくってほ
しいなと思うんですよ。そんな中で、今、部長がコバンザメ商法やというふうなお話があ
りましたね。そんな中で、これを見ておると、結構、ああ四つのコースもモデルコース挙
げてもらってあって、四日市でちょっと休んでいきませんかといような感じやけど、休ん
でいくんやなくて遊んでいってもらわなあかんのやわな。そうやで、これではちょっと主

はどうなんかな。悪くはないんだけど、やっぱりこれもかたいな。ちょっと寄ってこ、四日市みたいなフレーズでぷっと出してくると、こうやってもっとわっと笑うて楽しそうな雰囲気をつかまえるような形がいいんじゃないのかなというふうな気がしております。

それで、一つお聞きしたいのが、タクシー観光モデルコースって四つあるんのやけれども、2時間半コースとか4時間半コースってあるんやけど、これ、タクシーで回ると幾らかかるんやろう。それで、かなり多分かかると思うんですよ、タクシーでこれだけ回ると。それを皆さんのお力添えで、タクシー会社ときちっとこのコースに触れたときにセットで幾らって割安に回れるように仕組みをしたらんと、アピールするだけではなかなか行きづらいと思うんですよ。ちょっと寄っていこう四日市でばっと見たら、ああ、ええコースあるやんと。こんなので4時間回れるのとなれば、行きたくなってくるんじゃないのかなと、そんな気がしております。そうやで参考にしてください。

それと、あと、いろんなものを受けてアピールしてもらってあって、すごいなと改めて思うんやけれども、酒屋さんなんて四日市結構ようけあるね。これ、和菓子屋さんもありある。それで、こんな人たちに競争心をやっぱし植えつけていかないかんと思う。例えば和菓子で言いますよ。おいしそうないい和菓子それぞれある。私もようお土産に使ったりするんですけど、この人たちがこれだけアピールしておるのではなかなか使ってもらいにくい。

これがあるということをもみんなに知ってもらうのは、これでもいいんだけど、この人たちが例えばこれは大事にしておいて、何かの一つの共通点を与えてあげて、加納さん、副議長がよう言うように、B 1グランプリって全国大会でありますよね。市内版で例えば和菓子のB 1やないけど、何かテーマで何かのイベントのときに競ってもらおうという仕組みをつくってやったらどうやろう。酒屋さんにおいてもそう。それぞれの名刺はそれでいいんですけども、四日市をアピールするためのお酒やとかお菓子をつくってもらって、どこのお酒やお菓子がおいしいんやというのをわかってもらう。何かそのときそのときの課題を与えて競争させる、そういう仕組みってどうなんかなと思うんですよ。そうすると、競争があるとやっぱり力が入ってくるんやわ。そのための補助金は出さなあかんのやわな。そういうふうなことで、市民力というか、企業力をアップさせてほしいなと、そんな思いがありました。ですので、ちょっとその辺、まとめてやけれども、コメントいただけるとありがたいんですが。

岡田商業勤労課副参事兼観光推進室長

ありがとうございます。

伊藤委員からいただきました言葉、内容につきましては、商工会議所と早速連携をして取り組みを進めていけるように申し伝えたいと思います。

一つ、お菓子フェスタというのが、またことしになりますね。去年も盛況でしたが、あそこでも、私見ると、非常に売り切れ、すぐ売り切れるところ、それからだんだんと売り切れるところということで、お菓子屋さんたちも競争とはそれは言うのかどうか分かりませんが、もっと工夫をして、あるいは新しい商品をとということでチャレンジをされる。一つの場になるということはイベントであって、しかも競争の場ということにもなるかわかりませんが、そういったところをもっと活用して、お酒もしかりですし、いい商品、最初に戻りますが、お客さんの目線での商品開発というような形で活性化ができるように、商工会議所とも相談してまいります。

伊藤 元委員

ありがとうございます。

ぜひ、やっぱり商売は競争ですから、やっぱりその辺を、全てを底上げできるような企画をやっぱ、ちょっと組んでほしいなというふうに思います。これは多分、部長、昼版やね、部長のよう言う。それで、るるぶのあれが一応夜版というふうに認識してええのかな。それでいいと思うのやけれども、私らもよう外へ出ていったときにいろいろと仕事の後に、また夜なんか楽しむのに、その地域のそういう情報誌なんか集めるんやけど、大体一つである程度できておるといふ部分もあるので、余り昼間のところに夜のものを持ってくるといふのはどうかなというのもありますけど、もう一つ、リンクさせるように、夜版もありますよみたいな、それで昼版もありますよ、相互がやっぱり情報を伝え合うという部分、もう少し考えてもらえるといいかなと思います。

以上です。

山本里香委員長

ほかに。

石川善己委員

何度も私は言っているのですが、もうあれやと思うんですが、やっぱり観光って近隣の他市、あるいは近隣他県の人に足を運んでもらって、いかにお金を落とさせていただくかということやと思っています。先ほど部長がおっしゃってみえたように、なかなかやっぱり目玉になるものがない以上、泊まってどうのとかというのは難しいにしても、ぜひ、近場の他市、他県の人に来ていただけるようなアピールをもっとして行っていただきたいなって。やっていただいているとは思いますが、その辺に私は個人的に力を入れていただきたいなと思っていますので、お願いします。

もう、ここから先は非常に個人的な思いになりますので、無理なら無理でいいんですが、全国に三つしかないうちの二つがこの北勢にあります。ぜひ、内部線、西日野線と北勢線をセットにして、近鉄と三岐と上手に交渉していただいて、土日に鉄道マニアを呼び込む方策を何とか考えてもらえやんかなと個人的には思っております。ユーチューブとか結構鉄道マニアの方は見てみえるので、その辺もうまく利用していただきながら、セットで売っていただくことをちょっと考えてもらえやんかなという思いを個人的に持っていますので、ぜひ検討いただけたらなと思います。

山本里香委員長

ご意見が出ました。よろしいですか。

小林博次委員

これ、商工会議所つくったんやったな。

これ、大福餅、載っているけど、栄昌堂の麩万寿が載っていない。いやいやいや、笑っておるけど、かなり遠いところから買いに来ているのに、大福餅、かなり遠いところから買いに来ているのかな。ちょっとわからんけど。

山本里香委員長

そういうことで、指摘をしておきます。

小林博次委員

市民が買いに来てる。

(意見する者あり)

小林博次委員

載っておるの。そうか。済まん。

山本里香委員長

なかなかお店がたくさんあるので難しいことやと思う。

ちょっと、今、1時間ほど時間がたったのですけれども、今、皆さんにご意見をいろいろいただいております。先ほど樋口委員からも、市としてもっとそういう観光施策が進むように手だてをしなければいけないことが十分に、今回は、この資料では伝わってこないがどうなっているのだとか、あと、小林委員や伊藤委員からもそういうような指摘があり、市がすべきこと、皆さんと一緒にすべきこと、市がすべきことという中で、市民の方から前回指摘があった観光振興条例などをつくるということが、そういうことを後押しするとか、ことになるのでしょうか。そのことについては、どういふふうにお考えでしょうか。

清水商工農水部長

確かに観光条例という考え方はわかるんですけれども、観光条例が理念条例になるのか、例えばその観光条例の中で観光基本計画をつくって、その進捗管理、P D C Aで回せというような話になるのかということでも変わってくると思うんですけれども、今、私ども、最初に岡田室長のほうが言いましたように、まずやってみるというところで、今、私ども走っておるわけでごさいます、なかなか次の展開という、基本計画を立てるところまでまだ正直いっていないのかなと。きょうのご意見もいろいろいただくと、もうちょっとお時間をいただきたいなと、もうちょっと助走が欲しいなというのが私の本音でございます。

山本里香委員長

ご意見いただきました。

そういうことも絡めまして、今後のいろいろネクストということで、ご意見も皆さんからいただいて、それも理事者のほうも聞いていただいているわけですが、今後のことにつ

いて、どのような委員会として指摘をしていくべきでしょうか。

伊藤 元委員

部長が言うていただいたことで私もいいと思っています。ぜひ、また、やりかけて間もないことですので、頑張っ取り急ぎはやっていただきたいなと思います。

それはそれでいいんだと思うんやけれども、私たちとしても、一応市民からそういうお話もいただいておりますので、観光基本条例なるものがどういったものができるんか、どういったものの中身なのかということは今からでも勉強しても遅くはないと思っていますので、例えば参考に他市町のそういう条例等があれば、ひとつ取り寄せていただいて、一遍見てみたいなという私は気がしています。それで、もし時間があれば、こういう場なのか、議席なのかわかりませんが、検証していけばどうかなというふうに感じております。

山本里香委員長

次へつなげるために、そういうことも資料として一遍見てもみたいということですが、ほかに条例のことだけにかかわらず、そういうようなことに向けて今必要なことということで指摘が、全体的なこと観光施策を推進するためということでもありますでしょうか。

樋口龍馬委員

清水部長が市役所にいていただく間に5年先ぐらまでの計画を立てていただけるとありがたいなと。定年を迎えられる前に。なので、わずかですけど、今のままでぼろっとしてしまうと、また引き継ぎもままならずという形になると思いますので、具体的にどうしていくんだというのを5年先ぐらまで見た形の絵を描いていただければなと切に願っております。

山本里香委員長

とにかくそういうことが必要だという指摘だと思いますが、市民参加で今進めてきているものの意見を、実態を確認して、何を今しなければいけないということも確認していかんかなと、もっと細かくね。それをもとに計画もということだと思うのですが、副委員長、何かご意見ありますか。

中村久雄副委員長

このまま研究になってくると思うんですけれども、一つの指標として、室長がおっしゃった観光室の取り組みの中で、市民有志のボランティアが育ってきたというのが本当にちょっと安心したところなので、やはり冒頭の話もあったように、やっている者がみんなが楽しい。やっている者が楽しまなあかんというので、市役所の役目という中では、ボランティアでやってもらえる人がいかに楽しんで、ああ、よかったな、また次もしようとか、ああ、今度ちょっとうちの出ていった息子呼びたいなとかいうことがどンドンどンドン膨らんでいくと思うんですよね。

だから、一つの指標として、ボランティアが何人ふえていったかということも数字としてあらわれてくるのかな。それがやっぱり次につながるといいますし、気をつけてほしいのは、室長の言葉で大丈夫かなと思ったんですけど、結構市役所でボランティアをちょっと大事にしないと苦情来るんのやわ。この間のスポーツフェスタのときと同じ日に行われた水沢ね。同日に行われた港まつりの、あの日、大雨ですわ。大雨で、港の観光のガイドさんから、もう私ら雨に濡れたままで、役所の方はパンフレットだけテントに入れて、私らに椅子もないし、テントもないしというような話で、やはりボランティアさんを大事にするという気持ちが役所になかったら、そのボランティアさんもやったかいがないので、それを大事なキーワードとして持って行ってほしいなというふうなことを思います。

山本里香委員長

ほかに皆さんよろしいですか、ご意見。また、きょう、これよりたくさんたくさん具体的なことあると思うのですが、予算、決算につなげていただいて、それぞれ掘り下げて、また深めていただきたいと思います。

私のほうからも、今、ボランティアさん、観光行政にお手伝いをいただいている、一緒になって頑張ってみえる市民の方々がたくさんふえていくように、そして、その方々が、また交流もしながら、もっともっと広げて巻き込んでいく、市民の皆さんを巻き込んでいきたいと、その方々もきっと多分考えてみえることから、このようなご指摘があったのだと思うんですけれども、まちをつくっていくのに、いい言葉ではないですけども、ばか者、よそ者、若者とキーワードで言いますよね。ばか者、よそ者、若者。今、ばか者というのは一番初めに指摘があったみたいに、突飛なことやとか、ええっと思うようなことで

も、それがブレークの根元になるような話なんかも実際あるわけで、若者、ばか者、よそ者を巻き込んだ形の何か観光を盛り上げていくような交流をして、吸い取っていく、まとめていく、そんな仕掛けも今後つくっていく中で計画ができ、またそれを推進するものが次必要であればできてくるような形を市議会としても、委員会としても、また模索をしていきたいと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。

(異議なし)

山本里香委員長

それでは、ここで、あの時計で15分まで休憩をとりたいと思います。7分ほど休憩をとりたいと思います。ありがとうございました。続けて、また商工ですので。

11:07 閉議